

そらまめ式 療育プログラム



マッチング課題用 マッチングカード

課題1：単純マッチング課題

課題2：選択マッチング課題

そらまめ式療育プログラム教材 マッチング課題用カード一覧

No.	形	名前	サイズ	枚数	No.
1		スクエアカード・男	大	4	1
2		スクエアカード・女	大	4	2
3		スクエアカード・バス	大	4	3
3s			小	4	3s
4		スクエアカード・サイン	大	4	4
5		スクエアカード・キャップ	大	4	5
6		スクエアカード・大型バス	大	4	6
6s			小	4	6s
7		スクエアカード・バス60	大	4	7
8		スクエアカード・大型バス60	大	4	8
9		サークルカード・無地	大	4	9
10		サークルカード・リボン	小	4	10
計				48	

そらまめ式療育プログラム教材 マッチング課題

段階	使用するカード	大きさ	形	色	図柄	種類	次の段階
0	1,10	違う	違う	違う	違う	2	1
1	1,9	-	違う	違う	違う	2	2
2	1,2	同じ	同じ	違う	違う	2	3
3	1,4	同じ	同じ	同じ	違う	2	4
4	1,2,9	-	一部違う	一部違う	違う	3	5
5	1,2,9,10	一部違う	一部違う	一部違う	違う	4	6
6	1,2,4,9	-	一部違う	一部違う	違う	4	7
7	1,2,3,4	同じ	同じ	一部違う	違う	4	8
8	1,3,4,5	同じ	同じ	同じ	違う	4	9 or 11
9	3,3s	違う	同じ	同じ	同じ	2	10
10	3,3s,6,6s	違う	同じ	同じ	同じ	4	11 or 14
11	1,3,4,6	同じ	同じ	同じ	細部違う	4	12
12	1,3,6,7	同じ	同じ	同じ	細部違う	4	13
13	3,6,7,8	同じ	同じ	同じ	細部違う	4	14 or 9
14	3,3s,6,6s, 7	一部違う	同じ	同じ	細部違う	5	15
15	3,3s,6,6s, 7,8	一部違う	同じ	同じ	細部違う	6	一旦終了 a1へ
a1	3+6,9+10	一部違う	違う	違う	違いを一部無視	4	a2
a2	3+3s,6+6 s	違いを無視	同じ	同じ	違う	4	a3
a3	3+3s,6+6 s,9+10	違いを無視	一部違う	一部違う	違いを一部無視	6	a4
a4	1+3+4,2+ 9+10	違いを無視	違いを無視	違う	違いを無視	6	FINISH!

そらまめ式療育プログラム教材 マッチング課題 実行手順

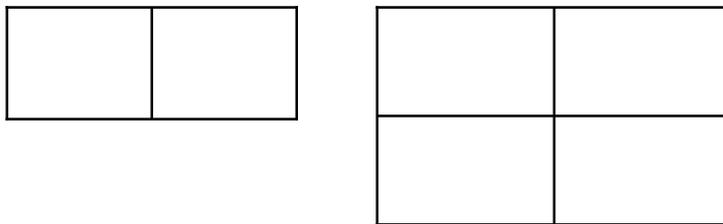
- 本教材の特徴
 - － この教材は、カードによる「マッチング課題」を行なうためのものです。
 - － 限られたカードで課題の難易度を徐々に上げていけるよう工夫されています。
 - － イスに座らせて課題を実行させるような、いわゆる「フォーマルなトレーニング」の最初の挑戦課題として活用できます。
 - － 最も基礎的な「単純マッチング課題」に加えて、その次のステップである「選択マッチング課題」も行なうことができます。

- 課題の実行のために用意するものは以下のとおりです。

- － マッチングカード(本教材セットに含まれています)
- － 仕切りのついた箱(別途ご用意ください)

100円ショップなどで売っている小物入れや浅いタッパーなどが使えるほか、厚紙などで手作りすることも可能です。それぞれの区切りの中に、マッチングカードが容易に入る大きさが必要です。

「単純マッチング課題」では、前半と後半で一度に使うカードの枚数が違いますので、区切りが2つのものと4つのものと2種類が必要になります。



一方、「選択マッチング課題」では、区切りのないものを使います。



- － 強化のために使う「ごほうび」

課題ができたときに与えるためのものです。

一般的には子どもの好きなおやつなど、**すぐに与えられてすぐに消えるもの**が望ましいでしょう。**1回に与える量はできるだけ少量**(例えばバスケットなら小指の先くらい)にします。

ほめたり頭をなでたりするのがごほうびになる場合はもちろんそれでも構いません。

そらまめ式療育プログラム教材 マッチング課題 実行手順

- 課題を実行する場所について
 - 自閉症の子どもにとって、「今は課題の時間なんだ」ということが分かりやすくなっていることが、課題をうまく進めるためには有効です。
 - 専用の部屋やコーナーを設けることができれば理想的ですが、現実的には、例えば以下のような工夫をすればいいと思います。
 - 課題のカードや箱を見せて、「これから課題をやるよ」と子どもにアピールする。
 - 課題を実行するテーブルの上をきれいに片付ける。
 - 課題と関係のないおもちゃを見えないところに移動する。(おもちゃを片付けて、カーテンなどで覆いをする等)
 - 子ども用のイスに座らせたりして、「課題をやる場所」をはっきりさせる。
- 「単純マッチング課題」の実行方法
 - 単純マッチング課題とは、提示されたものと並んでいる見本を見比べ、同じものを探す課題です。
 - 区切りが2つの箱と、段階「0」で使うカードそれぞれ4枚を用意します。(それ以外のカードは見えない場所にしまっておきます)
 - それぞれの区切りの中に、カードを1枚だけ入れておきます。これが、カードをマッチングさせるための最初の手がかりになります。
 - 残りのカードをシャッフルして手持ちし、1枚ずつ子どもに渡し、同じカードが入っている区切りに入れることができれば「成功」、正しく入れることができなかった場合は「失敗」です。
 - 「成功」した場合には、すぐさま用意しておいた「ごほうび」を与えます。「失敗」した場合には、何も与えず、もう一度挑戦させます。
 - できるだけ「失敗」させないようにして、「成功」の経験を繰り返させることがとても重要です。最初は、十分に手助け(プロンプティング)して、「成功するとごほうびがもらえる」ということ自体を学習させることに集中します。
 - 最初は、子どもにカードを持たせた手をそのまま「正しい区切り」に移動させ、落とすところまで完全に補助します。
 - 次に、「カードを落とす(置く)」ところだけ子どもにやらせるようにします。
 - 次に、子どもの手をうまく誘導し、子ども自身が「正しい区切り」を判定し、カードを置く行動ができるようにします。「失敗」した場合はすぐさま完全補助に戻し、カードを正しい区切りに入れなおしたうえで、「ごほうび」を与えます。
 - すべての手持ちカードを箱に入れるところまでを1セットとし、毎日5セット程度を目安に継続します。
 - 徐々に手助け(プロンプト)を減らしていき、子どもにカードを渡すと自分で正しい区切りに確実に入れられるようになれば、次の段階に進みます。次の段階に進んだ直後は、プロンプトを復活させて構いません。
 - ごほうびは、最初は1回の成功ごとに与え、慣れてくれば1セットにつき1回に変更します。

そらまめ式療育プログラム教材 マッチング課題 実行手順

- 「単純マッチング課題」の実行方法(続き)
 - 標準コースは、段階を1つずつ進んでいくことですが、段階8、段階10では、次の段階を選ぶことができます。お子さんが特に苦手な項目がある場合は無理をせず、段階をスキップしても構いません。
 - 標準コースは段階15で終わりです。段階15の後の段階a1以降は予備コースとして設定されており、一部の違いを無視して「似ている」カードをマッチングさせる課題となり、難易度は大幅に上がります。
 - 本課題修了後は、下記の「選択マッチング課題」に移行してください。また、フォーマルな課題を実行する素地ができたことを活かして、他の知育玩具にも挑戦させてみてください。
- 「選択マッチング課題」の実行方法
 - 選択マッチング課題とは、大人が提示したカードと同じものを子どもが選択するという課題です。
 - 区切りのない箱と、段階「0」の2種類のカードをそれぞれ2枚ずつ、計4枚を使用します。
 - 子どもの前に、2種類のカードを1枚ずつ並べてください。
 - 残り2枚のカードのうち、どちらか1枚を箱に入れて子どもに見せてください。これを「見本」と呼びます。残り1枚は見えないようにしておきます。
 - 子どもがこなすべき課題は、目の前にある2種類のカードのうち、すでに箱に入っている「見本」と同じカードを選んで、箱に入れることです。
 - これまでの課題同様、最初はすべての動作をサポートし、「成功」したら大いにほめてごほうびをあげる、という「成功体験」を繰り返させ、その後徐々に手助け(プロンプト)を減らしていきます。
 - 子どもがカードを箱に入れたら、そのカードを元の場所に戻し、最初に入っていた「見本」もいったん引き上げて箱をカラにし、改めて箱に「見本」を入れるようにします。「見本」は、最初のうちは常に同じカードとし、慣れてきたらもう1枚のカードに変更、それにも慣れたら徐々にランダムに変更するようにします。
 - 5回の試行で1セットとし、最初は1回の試行ごとにごほうびを与え、慣れてきたら1セットごとにごほうびを与えるようにします。
 - 完全にランダムな試行1セットが確実に成功するようになれば、次の段階に進んでください。段階15までを終えれば、本課題は修了です。
 - 「箱に入れる」という課題のやりかたがうまくいかない場合、「その場でカードを持ち上げさせる(提示させる)」「大人にカードを渡す」「指差しをさせる」など、うまくいく方法を探してください。ただし、一般的にはこれらの方法より、「箱に入れる」という方法のほうが習得が容易だと思われます。

